

地域と協同して生活していることを 忘れずに!

東北大生のみなさんが社会生活をしていく上でのマナーやルールについて、苦情と改善を求める声が地域の方々から幾つか寄せられています。なかでも最近多いものがごみ出し、夜間の騒音です。自分自身の行為はマナー違反ではないと思っても、地域や周囲の人の迷惑になっていることもあります。またひとりの学生のマナー違反でも、地域の方からは「東北大学の学生が～」ということで、一絡げに非難されることになります。人への思いやりと公共性を持った生活を心がけてください。地域の方は暮らしやすい街づくりのために日頃から活動されています。みなさんも地域社会の一員として、また東北大生としての自覚を持って行動してください。

◎ ごみ出し

地域の声

夜間にごみを出す、ごみ袋をネットの中に入れて出さず、カラスによってごみが散乱する

※収集日当日の、早朝から朝8時30分までに決められた集積所へ出してください。

ごみ集積場の掲示板等には地域ごとのルールが書いてあるので、必ずチェックしてください。

いま一度確認! 仙台市のごみ出しルール (<http://www.city.sendai.jp/index.html>)

仙台市ホームページ

市民向け情報

住みよい街に

ごみの出し方・減量

ごみは指定の
ごみ袋へ



指定の曜日を
守りましょう



ごみは指定の
場所へ

◎ 夜間の騒音 (川内北キャンパス)

地域の声

キャンパスで深夜の大きな歌声や会話がうるさくて寝ることができない、非常識すぎる、安眠妨害だ。

※深夜に限らず、騒音を出すことは非常識な行為です。キャンパスから発する音声だけでなく、自宅アパート等においても大きな音声は控えて、ご近所に迷惑をかけないでください。住民の方が安全・安心に生活することができるよう行動してください。



交通マナー・ルールを守ろう

下記の表は平成26年1月から6月までの東北大生の交通事故発生件数です。

いぜんとして自転車・バイクの事故が発生しており、交通事故の大半を占めており、なかには救急搬送されるという大きな事故もみられます。事故原因は自身の不注意によるものが多く、交通マナーの悪さが引き起こした事故もあります。東北大生の運転マナーの悪さやルール違反に対する指摘の声が地域の方々から多く寄せられています。特に通学児童や高齢者のいわゆる「交通弱者」に危険を及ぼすことのないよう、交通マナー・ルールを守り、安全な運転を心がけてください。

なお、自転車や原付バイクであっても事故の加害者になった場合、高額な損害賠償の請求が発生します。万が一の場合に備え、損害賠償付きの任意保険に加入してください。

◎ 運転マナー・ルール違反

地域の声

下り坂での学生の自転車スピードがとても速く、また数台が次々に来るので危ない。ヘッドホンをして乗っている人も多く、自転車同士の衝突も何度も見かけている。子ども達が被害に遭わないか心配です。

◎ 交通事故発生件数 (H26.1～6)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
自転車	0	0	0	2(1)	1	1	4(1)
バイク	3(1)	0	1(1)	1(1)	2	0	7(3)
その他	0	1	1(1)	0	0	0	2(1)
計	3(1)	1	2(2)	3(2)	3	1	13(5)

※()内は救急搬送された件数で内数を表す。



仙台中央地区亀岡防犯交通安全協会からのお願い

みなさんこんにちははじめまして。

私どもは仙台中央地区亀岡防犯交通安全協会と申します。

今回初めて貴誌にコメントを掲載させていただくことになりました。というのも、近くにある市立立町小学校やPTAの方々から、学生さんの自転車走行マナーが悪く危険なので、何とか対策を話し合ってほしいとの要望がありました。私どもはここ60年間にわたり、亀岡駐在所管内の交通安全と防犯に関し、特に子供や高齢者の「交通弱者」に対して様々な注意喚起のためのイベントを開催しつつ、交通安全の施設や出前講習会も実施しているボランティア団体です。よって今回、東北大学のご協力のもと、学生さんの交通安全に対する意識の高揚と防犯に対する認識を深めていただき、**日本一安全安心な学園構築**に少しでもお役にたてたらと思いました。東日本大震災に見るまでもなく、日頃の通学や学内での事故に関しては『いのちてんでんこ』を基本に、今後皆さんの積極的な参加を望みつつ、東北大学の方々や善後策を練って一件でも事件・事故を防いで参りたいと願っております。

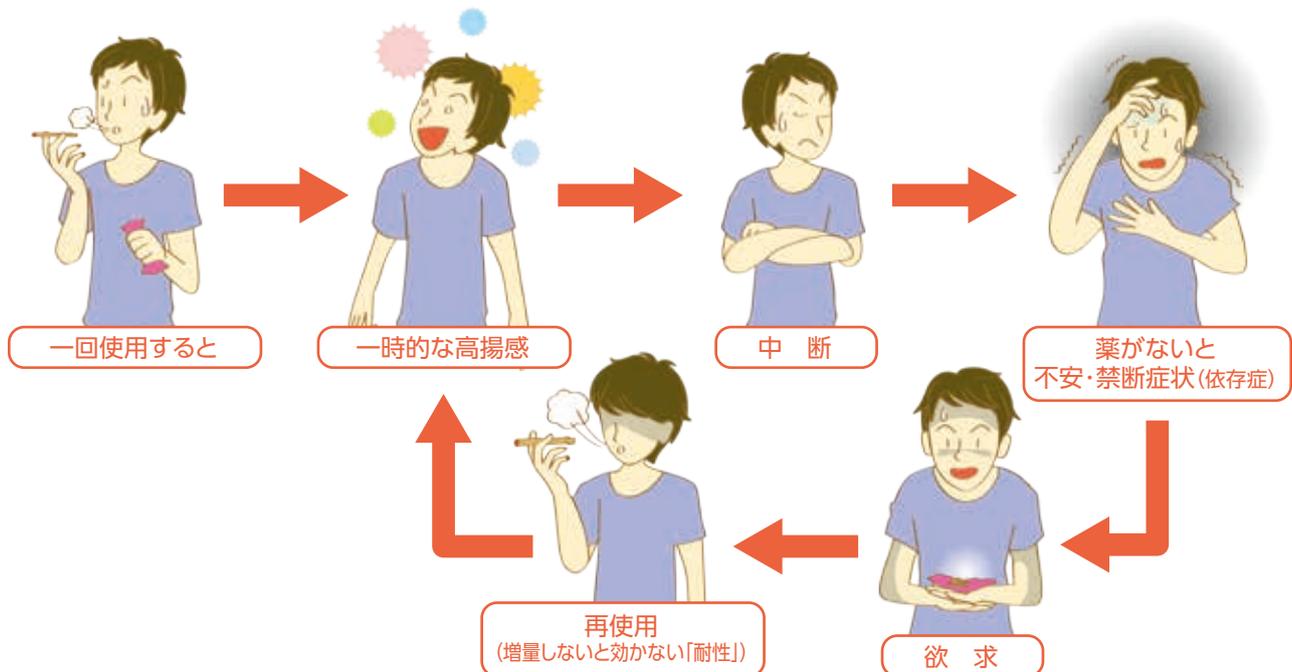


「てんでんこ」は「各自」「めいめい」を意味する名詞「てんでん」に、東北地方の方言などで見られる縮小辞「こ」が付いた言葉です。「いのちてんでんこ」は「自分の命は自分で守れ」という意味のほか、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということも含まれています。

脱法ドラッグ(危険ドラッグ)に 関係した事件が多発しています

脱法ドラッグが原因の重大な事故が全国的に立て続けに発生しています。「脱法」、「合法」という冠をつけて販売されているために、身体への影響がなく、安全であるかのような印象を受けますが、覚せい剤や麻薬などの化学構造を少しだけ変えた物質が含まれていることもあり、身体への影響は変わりません。むしろ何が含まれているかわからないものもあり、一度摂取すると、実際に無いものが見える、聞こえる(幻覚・幻聴)、ぐったりする(疲労感・倦怠感)、集中して勉強できなくなる(学習能力の低下)など、様々な悪影響が出るほか、意識障害や嘔吐などの体調不良や最悪死亡するケースも見られるなど、薬物依存症はじめ何が起るか予測不能です。覚せい剤など以上に変危険な薬物です。絶対に手を出さないでください。

◎ 依存と耐性の悪循環を繰り返します



脱法ドラッグ による 事故例

- 脱法ドラッグを吸って上半身裸で小学校に乱入し、児童を追いかけまわしてけがをさせた。(2012年10月 東京練馬)
- 脱法ドラッグを使用した女性が下痢、おう吐を繰り返し、衰弱しその後死亡した。(2013年10月 大阪市)
- 脱法ドラッグを吸って車を運転し、歩道に突っ込み歩行者をはねて1人を死亡させ、7人にけがを負わせた。(2014年7月 東京池袋)

◎ 「脱法ドラッグ」の名称が、「危険ドラッグ」になりました

警察庁と厚生労働省は、脱法ドラッグの名称について危険性の重大さが伝わらないとして、新名称を公募していましたが、7月22日「危険ドラッグ」を選んだと発表しました。

厚生労働省HP <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000051607.html>

明善寮のリニューアルについて

上杉地区の明善寮については、かねてより飲酒にかかわる迷惑行為が絶えなかったため、大学は寮委員会を始め、寮生らに直接の説諭を重ねて行うなど各種指導を続けてきましたが、残念ながら改善がみられないことから、平成26年4月24日より当分の間、寮内での飲酒を全面禁止としていました。

しかし、寮生においては、その後も指導や当該措置を順守することなく、寮内においてはアルコール飲料の大量の空き缶や、飲酒による嘔吐などが確認されてきました。明善寮にあっては、これまで寮生から飲酒迷惑行為を理由とする退寮者が続いたり、保護者の方からも抜本的な解決を強く求める声が寄せられてきました。このことを受けて、大学は学生生活協議会で検討を行い、明善寮の飲酒迷惑行為は寮生個々人の問題ではなく、寮の体質・文化・慣習によるものであって、寮生らによる自浄作用は困難との判断に至り、寮生全員を退去させて飲酒迷惑行為の抜本的な解決を図ることとし、これを機会に老朽化した寮を改修することとした次第です。

- 1 急性アルコール中毒等飲酒被害から寮生の身体の健康と生命の安全を確保するため、寮生全員を本年9月末までに転居又は退寮させ、飲酒にまつわる悪習を根絶する。
- 2 全員の退去を機に、老朽化した寮施設について、清掃や床の張替、トイレの洋式化などの整備改修を図った上、飲酒に向かない・飲酒を好まない学生であっても安全・安心に勉強及び居住できる寮として再開する。

このことは、7月15日学生生活協議会から明善寮生に直接伝え、その際、全面禁酒を守った寮生については、個別に面談を実施した上、本人の希望を尊重して本学の他の学生寄宿舎への一時転居を斡旋することを併せて伝えました。

個別面談は、7月22日から25日までの4日間にわたり、小田中総長特別補佐(学生支援担当)と学生生活支援専門委員会正副委員長が申し出のあった寮生100名と行い、96名から転居の希望がありました。そして、すべての個別面談終了後、明善寮委員会正副委員長ら3名と意見交換を行い、あらかじめ明善寮委員会にお願いしていた寮生から取りまとめられた疑問、質問事項に丁寧に回答するとともに、今後はスムーズな転居等に向けて協力して進めていくことを相互に確認しました。なお、その際、リニューアル後の寮運営は引き続き寮委員会に運営を担ってもらう考えであることを伝えたとこです。

本学では、平成27年4月から明善寮を含む6学寮の入寮資格が学部と大学院の学生に統一されます。これによって、入学から卒業・終了まで転居することなく安心して学生生活を送ることができるようになります。

本学は、今後も、すべての学生諸君が健康で安全・安心な学生生活を送れるよう努めていきます。